

### ■ドイツ：暖冬などの影響で石炭火力発電量が激減

2014年3月11日付の現地紙は、暖冬の影響で今冬のドイツの火力発電量は大幅に減少していると報じている。フラウエンホファー・ソーラーエネルギーシステム研究所がドイツ電力取引所（EEX）のデータをもとに算定した数値によると、暖冬による暖房需要の低下や風況・日照などの天候条件に恵まれて再エネ発電量が増加したことにより、昨年12月から今年2月までの褐炭火力、石炭火力、ガス火力の発電量は前年同期に比べそれぞれ21億 kWh（-2.1%）、48億 kWh（-15.2%）、42億 kWh（-20.6%）減少した。これに対し、風力は60億 kWh（+43.5%）、太陽光は17億 kWh（+121.4%）の増加となった。卸電力価格の低下、脱原子力、洪水のように押し寄せる再エネ電力が原因でドイツの電力会社は創業以来最大の危機に見舞われているが、そうした逆境の中、これまで発電量をほぼ従来の水準に維持し、多少なりとも経営の支えとなってきた石炭火力発電量が今回後退したことは、再エネの追加的な導入が電力会社にとって新たな強い痛みをもたらすものであることを示唆している、と現地紙はコメントしている。